

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292100078		
法人名	株式会社ヘルスケアナラシノ		
事業所名	グループホーム大久保		
所在地	千葉県習志野市屋敷3-1-12		
自己評価作成日	平成27年2月1日	評価結果市町村受理日	平成27年6月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7
訪問調査日	平成27年3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1階にデイサービス2.3階に有料ホームを有した4階にある1ユニットのグループホームである。4階からの眺めはすばらしく、朝に夕に富士山が望め夜には幕張の開けた明かりのきらめきが、手に摂る様にわかる位置にある。ホームは1ユニットなのでこじんまりしているが、それだけに家庭的な雰囲気をかもしだしている。入居者の方々は女性が多い為、男性の方には姉の様な感じで接してくれているのが見受けられ大家族の様でもある。車椅子での移動の方が5人と多くなっているが2.3ヶ月毎に出かける外食やレク等でも必ず全員で参加している。これからもみなさんが安心して心許せる終の住処として過ごして頂ける様全力を注ごうと思っている。

平成23年4月にオープンし、この春に四年目を迎えるホームである。ビルの1階には同法人のデイサービス、2階・3階には有料老人ホームがあり、4階に当ホームがある。ビルの中だけでの生活にならないよう、この1年は特に地域交流に力を入れてきた。町内会の夏祭りに参加したり、運営推進会議でホームのことを知ってもらう取り組みを続け、交流の輪が広がってきている。町内会、デイサービスと合同でのカラオケ大会も実現した。今後は近隣の保育園、小中学校との交流も討している。またホームの広報紙の作成も進めているとのことである。母体法人が習志野市で複数の介護サービス事業所を運営しているスケールメリットを活かし、地域の人々の介護拠点となることが大いに期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、職員で話し合って作られた「自分に出来る事を見つけよう・そして続けていきましょう」の理念の基、職員、入居者の方々にも実践頂いている。	「自分に出来る事を見つけよう。そして続けていきましょう」の理念に沿って、利用者ができるだけ長く自立した生活を続けられるような支援に努めている。重度化が進んでいるが、体操、園芸、ぬか漬けなど、個別にできる事を見つけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会への加入に依り回覧板を回してもらい、地域で行っている様々な取り組みを把握している。夏祭りへの参加では、席を用意して頂いている。又、町会長には推進会議に出席して貰っている。	町内会に加入しており、祭り等の行事で交流している。町内会長らは運営推進会議の構成メンバーにもなっている。また、カラオケなど町内会のサークル活動に参加しており、ホーム、デイサービス、町内会合同のカラオケ大会も実現した。介護相談員受入れ、外食など、積極的に地域交流の機会を作っている。	今後は保育園の子どもや小中学校生など若い世代との交流も図りたいとの希望があり、その実現が待たれる。またホームの広報紙の作成も進めているので、地域への更なる情報発信が期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で開催しているイベントに参加し、同世代の方々との交流を図り認知症に対する理解を深めてもらう。又ホームでのイベントに招待し、入居者の方々の理解を深めて頂く		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回運営推進会議を開催しホームの現状やサービスの取り組み等報告している。運営推進会議で議論された問題点に対応することによりサービス向上に努めている。	運営推進会議は隔月で、様々な人の参加で開催されている。町内会の会長を始め、家族会代表、地域包括支援センター職員、介護相談員などが参加して情報交換している。外部からの参加者の声に耳を傾け、サービスに反映するよう努めている様子が会議録から確認できた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の連絡会及び地域包括センター会議の出席に依り、他施設の取り組み方の情報を得る事が出来、サービスの向上に繋がられる。	地域包括支援センター職員は、運営推進会議の構成メンバーとなっており、定期的に意見交換を行っている。市主催の連絡会等で地域の介護事業者が集まり、情報の共有が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が外部、内部いずれかの研修を受け身体拘束についての正しい理解ができおりケアの実践に取り組んでいる。	職員は研修等で身体拘束について正しく理解しており、原則として身体拘束は行わない。安全に配慮してセンサーマットを利用する場合も、できるだけ見守りでの対応に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待防止関連法についての研修を受け言葉の虐待を始めケアの中に虐待に値する様な行為がないかお互いに注意を払い防止に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部や内部での研修の際に、学ぶ機会を持つ様に努めている。成年後見人制度を利用していた入居者がいた事で学ぶ機会を持つことができた。これからも活用に向けて役立てたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は、利用者や家族が十分に理解・納得して不安や疑問が無くなるまで説明をし家族共々安心して入居して頂ける様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回家族会を開催し家族から意見や要望を聞く機会を設けている。その他日常的に家族から意見や要望を聞く体制をとりそれらの意見を職員で話し合い運営に反映させている。	半年毎に家族会があり、約半数の家族が参加している。その他、面会・通院付添いなどで家族が来所した際に職員が声をかけ、意見・要望等を聴くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会等で現場からの意見や提案を述べる機会を設けている。又ホーム会議や毎日の申し送りの際、常時職員からの意見や提案を聞く機会を設けてあり運営に反映させている。	職員は申し送りや定期会議の席で活発に意見交換を行っている。重度化が進む中、利用者が少しでも自立を維持し楽しく生活できるように、職員は運営面についても提案をし、管理者は反映できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいが出る様な職場環境を作り、向上心を持ちモチベーションを維持して働ける様条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に法人全体で研修の機会を設けている。又職員一人ひとりの持てる力を把握し、レベルアップに向けての技術向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の介護サービス向上連絡会や包括支援センター主催の会議に出席の際、同業者と意見交換等交流を図る機会を作っており、他事業所の取り組み方を把握しサービスの質の向上に役立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	住み慣れた家又家族と離れ大変不安を感じていると思われる。本人が困っている事、不安な事、要望等に耳を傾けこのホームが安心して生活できる所だと分かって貰える様努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が入居に至るまでの葛藤を考え、家族が困っている事、不安に感じている事、要望等できるだけ細かく話して頂ける様、信頼できる関係づくりに努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最初に本人、家族の話を傾聴し必要としている支援を見極める。又その他のサービスをも含め対応できる様努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人を支援される一方の立場に置かず、日常生活の中で暮らしを共にする者同士として洗濯物をたたむ、食後の片付け等の軽作業を自然に手伝う家族の様な関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族は、利用者のことを最も理解している存在である為本人と家族の関係を大切にしながら共に本人を支援していく様に対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながらこれまで大切にしてきた人や行きつけの場所等に行く事ができる様支援している。	契約書等では面会時間が午後を設定されているが、実際には時間の制約はなく、家族は自由に面会することが可能である。近隣への買物、馴染みの美容院利用など、これまでの関係が継続できるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりの気持ちを尊重しながら利用者が孤立することなく適度な関係が持てるよう体操やレクリエーション等への参加を促す支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了した後も本人や家族から相談があった際には、必要に応じて支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、本人もしくは家族に暮らしについての希望や意向を確認している。また、困難な場合には家族などに確認して本人の意向を汲み取るようにしている。	入居時に、本人や家族から生活歴、価値観、生活習慣、趣味、意向などを聞いたり、書いてもらい情報を共有している。また、入所後は利用者との会話の中や表情などから意向を掴むように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時本人や家族に、それまでの本人の生活歴・暮らし方などを確認するようによりご利用されていたサービスなどの把握に努めるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、申し送りなどで入居者一人ひとりの心身の状態について情報を共有するようにより、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的に、入居者への声掛け・申し送り・ホーム会議などをしており、本人の意向やそれぞれの意見・アイデアなどを出し合い、介護計画の作成に反映させるようにしている。	利用者の意向については、普段の会話などから職員が把握し、ユニット会議やケアカンファレンスで共有している。それらの情報をもとに、家族の希望なども考慮して介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子などは個別記録に記入し申し送りなどで、職員間で情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに対応できるように、できる限り柔軟な支援・サービスの提供を心掛けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりを支えている地域資源を把握し、繋がりを継続し安全で楽しい暮らしができるように支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族がかかりつけ医の適切な診療を受ける事ができるように支援をしている。	家族の協力で、できるだけこれまでのかかりつけ医に受診できるよう支援している。ホームの協力医は月1回訪問しており、24時間対応可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、日常的に入居者の体調について看護師と連絡を取り、入居者が適切な受診や看護を受けられるように支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、折を見て病院関係者と連絡・相談し早期に退院できるように努めている。また、退院後についても利用者が療養に不安が無いようにサポートをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時あるいは入居者の状態に大きな変化があった際などに、重度化した場合や終末期の希望・意向についてご本人やご家族と話し合い確認をするようにしている。事業所として出来る事を説明しベストなサポートができるようにしている。	入所時に家族などの意向を確認しており、状況が変わった際には再確認している。主治医、看護師、家族や職員で話し合いを重ね、一番よい方法を考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時や事故発生時には的確な対応が出来るようにマニュアルを作成し、職員全員が周知し折を見て訓練も行っている。同時に応急手当などの訓練も実施し実践力を高めるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼間想定と夜間を想定した訓練も行い全職員が、避難誘導、初期消火等安全に対応できるように努めている。地域には災害時の協力をお願いしている。	消防署立会いの避難訓練を年2回実施している。夜間想定と訓練も行っており、問題点の検討をしている。町会から協力の申し出があるが、まだ具体化していない。	町会からの申し出もあることであり、地域との協力体制構築に向けて検討することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格を尊重し言葉掛けをする際には一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した対応をしている。	新任職員には接遇研修を行っている。管理者は、その時の利用者の状態を見て声かけするように伝えている。日常の業務の中で気づいた時には、職員間でお互いに注意し合える関係ができています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の関わりの中で入居者が自分の思いや希望を話せるような雰囲気を作り自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりの生活のペースに合った過ごし方が出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向を聞き同じ服装を避け清潔感のある身だしなみやおしゃれができるよう支援している。又月に一度訪問理容を設けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には一人ひとりの嗜好を取り入れ調理に参加できる入居者と食事作りをしている。又外食を楽しむ機会を設けている。	普段の食事は食材業者から取り寄せた食材を使って職員が調理しているが、日曜日の昼食は利用者の好きなメニューを聞き、一緒につくるなど食事を楽しくめるように支援している。また、食習慣の違いなどで食べられない物がある場合は、個別に対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事、水分摂取量は記録に残し一人ひとりの状態や習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きや入れ歯の手入れ等一人ひとりの力に応じた対応をし口腔内の清潔保持に気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、定時にトイレ誘導を行い一人ひとりの排泄パターンを把握するように努めその方に合わせた自立を支援している。	一人ひとりの排泄パターンにそって、声かけをしてトイレでの排泄ができるよう支援している。夜間も各利用者に合わせて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適切な水分摂取を促し、食物繊維を多く含む食物の工夫や毎日適度な運動への働きかけを行い個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本毎週入浴日を決めてはいるが、一人ひとりの体調や要望に応じていつでも入浴できる様支援している。	基本的な入浴日は決まっているが、時間帯はできるだけ希望に応じるようにしている。入浴時は職員と利用者がゆっくり会話を持つことができる時間として大切にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンが違ふ為状況に応じて対応している。日中は体操やレク等で体を動かし安眠出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の目的や用法、用量について職員は理解しており確実な服薬の支援を行い内服後の症状の変化にも留意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの個性を理解し、自己の得意分野で力を活かし役割を果たす事で張り合いのある楽しい毎日を過ごせる様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節毎に初詣、お花見や外食レク等戸外に出かけられるよう支援している。散歩、買い物はいつでも対応できる環境にある。又夏には地域の人々や家族に協力して頂き祭りに参加している。	初詣やお花見は年間計画に入れて実施している。また、お店からメニューを借りてきて、みんなの行きたい店で外食をしたり、コンビニエンスストアで自分で支払いをして買物するなど外に出る機会をつくっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談し本人が金銭の管理が出来れば希望に応じたお金を所持し買い物等自分で支払いが出来る様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じていつでも家族に連絡ができるように支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間にはレクの作品や外出時の写真等を貼り利用者や家族に見て頂いている。リビング、廊下等は、明るく適温に保たれている。季節毎の花を飾るなど居心地よく過ごせる様工夫している。	リビングは明るく、清潔を保つように心がけ、季節の花を生けるなど家庭的で居心地のよい空間をつくるようにしている。外出時の写真などを飾ることで、家族などとの会話のきっかけにもなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来るだけ気の合った利用者同士が同じテーブルになる様にしている。孤立する利用者がでないように職員が常に気を配り一人ひとりが心地よく過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や写真等好みの物を活かし出来るだけ家での生活環境と同じ雰囲気を作り居心地よく過ごせるように工夫している。	馴染みの机などをもってきたり、一人ひとりがカレンダーや写真などを好みに飾って、自宅と同じように過ごせるような工夫をしている。清掃は主に職員が行っており、清潔である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室入り口にネームプレートを貼り目印としている。廊下等には手すりが設置してあり安全で出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している。		